

## 新しい気づきを得られる貴重な機会でした。 山形大学 井上雅史

平成23年度の研究者交流促進プログラムに、山形大学から参加させていただきました。統計数理研究所の松井知子教授に受け入れていただきました。プログラムへの参加期間は、平成23年10月1日から平成24年3月31日です。松井先生よりこの制度を紹介いただいた際に、23年度の授業担当等が偶然にも年度の前半に偏ることが分かっており、ぜひ年度後半の参加に向けて準備させていただきたいと、お願いいたしました。幸いにも所属大学の皆様の協力も得られ、不在となる期間の事務的作業を担ってくださる方も見つかリ、研究室の学生にもビデオ会議中心の打ち合わせという形態を受け入れてもらうことができ、長期出張という形で参加することができました。

わたくしは情報科学を専門としており、最近では、非言語情報を中心にした、マルチモーダルな対話の分析や、テキストメディアを主体としたオンラインコミュニケーションの分析を行っていたのですが、プログラム期間中には少し切り口を変え、音声を対象とした新たな研究テーマに取り組むことを考えておりました。統計数理研究所での滞在開始とともに、テーマの詳細を検討していただきました。松井先生には、お忙しい中にも毎週のように打ち合わせの時間を持っただけ、感謝しております。また、音声という私がこれまで扱ったことのなかったメディアの性質についてや、機械学習の最近の動向についても教えていただきました。私の努力不足から、期間中には成果をまとめることができませんでしたが、ここで検討した計画に基づき、引き続き取り組んでゆくつもりです。この新規テーマ以外にも、プログラム参加以前にデータはそろえていたものの、発表しないままだったテーマをまとめることができたことなど、交流プログラムの期間は研究のための貴重な時間となりました。また、これまで気になっていたものの手を出せないでいた、各種のツールを試してみる機会も持つことができました。残念なこととして、自由になる時間は多かったはずなのですが想像以上に時間がたつのが早く、この機会に触れてみたいと持ち込んでいた、統計系の書籍等は、結局読み通すことができませんでした。



統計数理研究所においては、新しい学術的な情報に触れる機会が、所属元の地方国立大学に比べてはるかに豊富でした。毎週の統計数理セミナーでは、数理統計に関する新しい話題に触れることができました。また、所内で開催されるシンポジウム（「サービス科学研究センター設立記念シンポジウム」、共同研究集会「データ解析環境Rの整備と利用」、 「数学・数理学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ」等）に参加できたこと、各種の懇親会等で様々な方と話をさせていただく機会があったことなど、大学共同利用機関ならではの体験をさせていただきました。研究所外においても、都内で開催される研究会等に日帰りで気軽に参加することができることなど、研究所が立地する立川はやや都心から離れているとはいえ、東京に滞在することで、様々な学術的な動向を知ることができたと思います。

生活環境については、研究所に隣接したゲストハウスに滞在することができ、（現在の片道1時間半と比較して）通勤が非常に楽でした。楽すぎて運動不足になったのか、東京・山形間の移動で消耗したのか、立川の意外な寒さに身体が耐えられなかったのか、プログラム期間中は様々な体調不良に悩まされたのですが、幸いプログラム終了時には体調も整い、健康な状態で所属大学に戻ることができました。

現在の勤務先で三年目という少し状況に慣れてきたタイミングで、交流促進プログラムに参加することができ、研究水準の高い環境に接して刺激を受けることができたことは幸運でした。今回の滞在で得た気づき—自分の置かれている環境や先端的研究を行っている研究者の方々の様子などを、所属大学における教育研究活動に活かしてゆきたいと思います。